

循環ループ縮小化工事の 対応状況について

東京電力株式会社
2016年2月25日

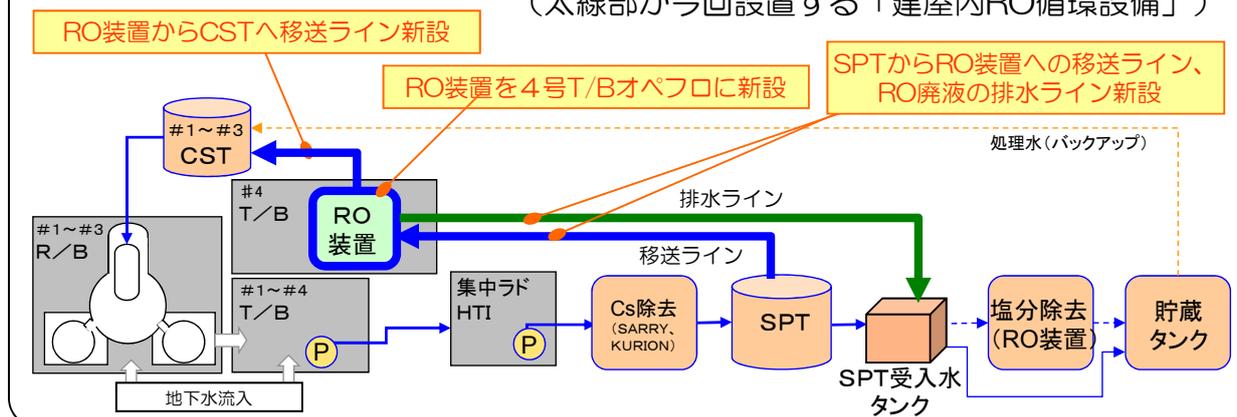
1. 循環ループ縮小化工事について

■概要

- 汚染水の移送、水処理、炉注を行う循環ループの内、**塩分除去（RO）装置**を**4号タービン建屋**に設置し、**循環ループの縮小**による屋外移送配管の漏えいリスク低減等を行うもの。（これに伴い設置する設備を「**建屋内RO循環設備**」と呼ぶ）。
- 当該取組により、循環ループ（屋外移送配管）は**約3kmから約0.8km**に縮小（滞留水移送ラインを含めると約2.1km）。

【循環ループ縮小 全体イメージ】

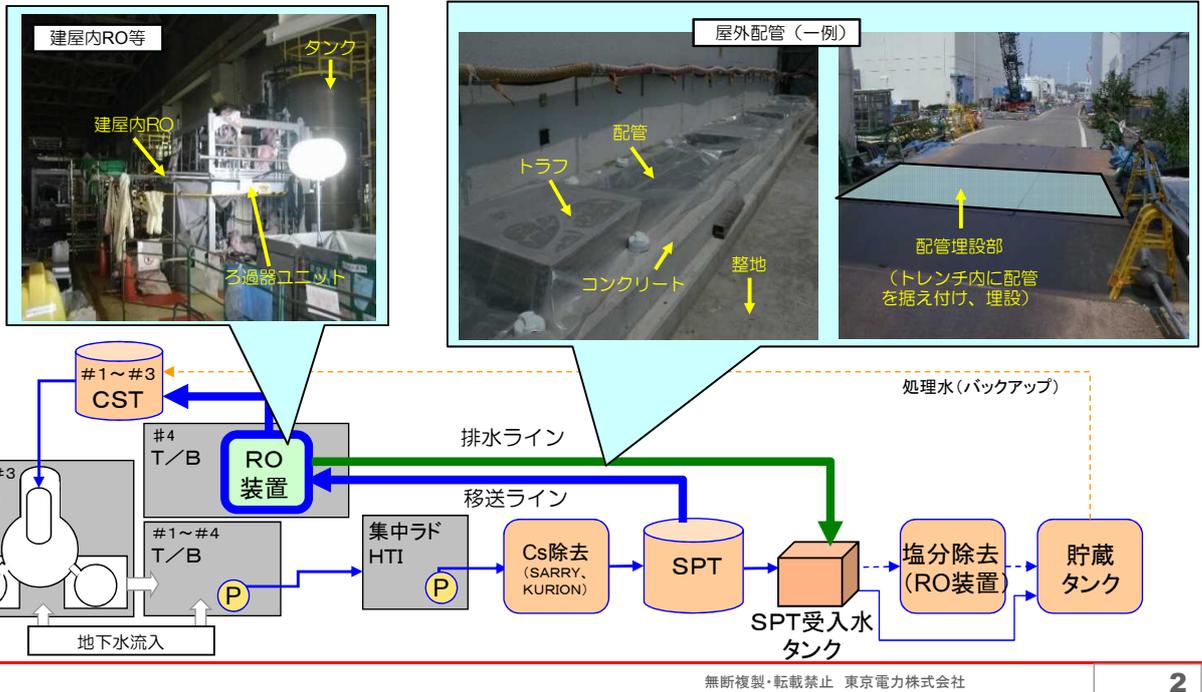
（太線部が今回設置する「建屋内RO循環設備」）



2. 当該取組の対応状況について

■対応状況

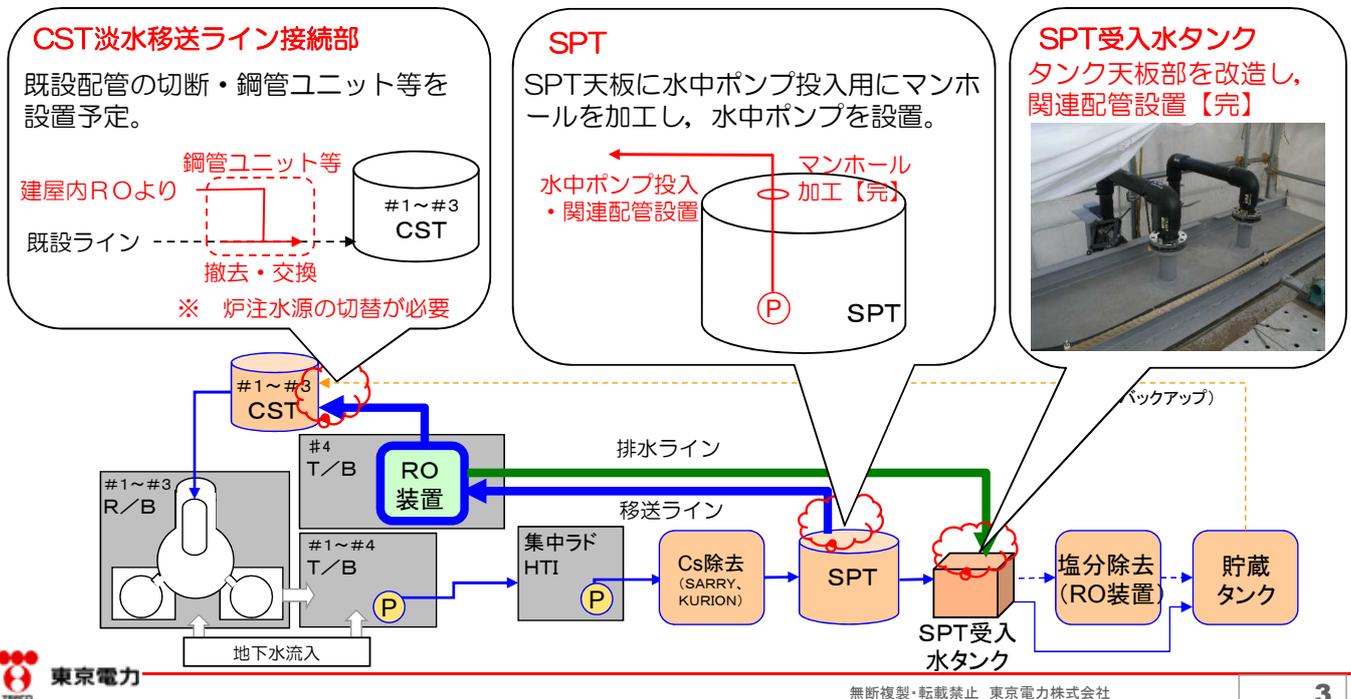
- 2014年7月に実施計画変更申請を行い、2016年1月28日に認可を受領。
- 2014年8月より工事を開始し、既設との取合箇所に関わる工事以外を完了。



3. 既設設備との取合箇所に関わる対応について

■既設設備との取合箇所に関わる対応

- 既設設備の改造が伴う工事範囲は、CSTへの淡水移送ライン、SPT廻りの2カ所。
- 2016年1月28日の認可後、取合箇所の作業を開始。



4. スケジュール

- CSTへの淡水移送ラインの設置には、**一時的な炉注水源の切替操作（CST→バッファタンク）を実施（2月18日）**し、配管の改造等を実施予定。
- 系統試験・検査を経て、4月末の運用開始を目標に対応。**

年	2015年度			2016年度	
月	1月	2月	3月	4月	5月
建屋内RO循環設備設置工事	実施計画変更認可 (1月28日)	SPT等取合部 改造工事*	水源切替対応 (CST→バッファタンク)	水源切替対応 (バッファタンク→CST)	※水処理の移送停止に合わせて工事実施
		水源切替対応 準備・調整	CSTへの淡水移送ライン 設置工事	系統試験～検査 (ろ過水)	系統試験～検査 (実液)
					使用前検査後、 設備運用開始

【参考】循環ループ縮小効果（屋外移送配管）について

- 今回の工事による循環ループ縮小効果（屋外移送配管）は以下の通り。
 - SPTからの戻りラインが必要となるが、貯蔵タンク（RO処理水貯槽）を經由したCSTまでの移送ラインの削減が可能。
 - 建屋滞留水（地下流入分等）の処理が必要な期間は、当該移送のラインが必要。

	CST循環（現行）	RO装置新設
ループ配置		
ループ長さ	約3km	約0.8km（注）

（注）建屋滞留水移送ラインを含めた屋外移送配管は約2.1km

➡ 炉注水に関わるループ（循環ループ）は**約3kmから約0.8kmに縮小**